和歌山

地域面3ページ

和歌山支局
〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL073(431)1411
FAX073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】
橋本 0736(32)0063 新宮 0735(28)1751
海南 073(482)0675 御坊 0738(22)2511
湯浅 0737(62)2870 田辺 0739(26)1026
【広告問い合わせ】 073(423)9291
【購読問い合わせ】 0120-468012

星の占い マーク・矢崎 11日

和泉国で街道は太く

絵と文・熱田親憙 題字・熱田秦華

熊野古道 みちくさ記 19

神社、商店街 地域に根付き

大鳥大社と鳳本通商店街（堺市西区）

五月晴れに誘われて JR鳳駅（堺市西区）で下車。和泉国の一の宮となっている大鳥大社を訪ねた。

参道の両脇は赤紫と白のツツジが満開。背後に立つ楠の木々は新緑に萌えて「千種の森」にふさわしい境内だ。奥に鎮座する大鳥造の本殿は長い歴史が醸し出す威厳に満ち、参詣者は切れ目がない。大鳥大社は大鳥連の祖神を祭ったのが始まりだが、日本武尊の白鳥飛来伝説から千種の森の社となり、参詣者も広域化した。鳥居の傍らは大きな献燈2基が寄進されており「木綿商之仲」と刻まれていた。木綿産地だった泉州らしいスポンサーだ。

大鳥大社から熊野街道は駅前の鳳本通商店街につながる。清潔な雰囲気に誘われて散策すると、現代的なショップ、レトロな店舗が並び、心地よいリズム感を感じた。間もなく、ちぐさのもり「コミュニティサロン」の立て看板に引きつけられた。

「平日12～13時みんなで一緒に昼食会 お昼ごはんを持参してもOK 近隣店で出前をとってもOK」。キャッチコピーから独居の熟年や高齢者にとってうれしいコミュニティーと感じた。部屋の中で昼食後の勉強会を行っていたケアスタッフが「ここでいろいろ学ぶのがいいみたいです。場所は向かいのクリニック提供です」と説明して下さった。「きめ細かな企画だね」と感想を述べ、人と人のふれあいが介護には必要と学ばされた。街道がコミュニティーの空間にもなっていた。

次にJR北信太駅（大阪府和泉市）から徒歩で、信太妻の民話として伝えられている信太森葛葉稲荷神社に向かった。

摂津国阿倍野に住んでいた安部保名は、信太の森に家名再興の祈願を重ねていた。ある日、保名はこの森で狩人に追われた白狐を助けた。その時保名は手に傷を受けてしまった。その数日後、白狐は葛の葉という女性に化けて保名を見舞った。互いの心が通じ合い、妻になり、童子丸をもうける。童子丸が5歳の時、眠っているうちに神通力を失って狐の正体を現してしまった妻は「恋しくは訪ねきてみよ和泉なる 信太の森の うらみ葛の葉」の歌を残して故郷の信太の森へ帰っていく。童子丸と保名が信太の森を訪ねると、社前に葛の葉が茂っており、その茂みが夫とわが子をみて、一斉に葉をそよがせ、葉裏をみせてざわめいたという。見事な物語である。

童子丸は、後に日本随一の陰陽師・安倍晴明となり、冷泉天皇など3帝に仕えた。晴明父子が住んだ地が阿倍野王子である。

この森は御命婦神白狐の棲む稲荷神社として奉られ1200年以上になるが、境内には婦人病の神さま、胃の神様、龍神の神様、肩こりの神様、集金の神様、目の神様など、身近な願いを込めた石碑や祠が多く寄進されていた。人の願いは今も昔も変わらない。午後5時の時報が鳴ると、お稲荷さんに地元の人々が集まり、合掌する姿が見られた。大阪市内など摂津国に残った熊野街道はわずかで、細い破線のようだが、泉州＝和泉国（大阪府南部）に入ると太い線でつながっており、地域の動脈になっていることに救われる思いがした。

雲仰ぐ千種の森の青嵐 秦華

（次回は7月9日掲載予定）